兼山小だより
「学校の教育目標「豊かな心と確かな学びを身につけたたくましい子」
かねやま
可児市立兼山小学校　学校だより
令和５年８月２９日　第６号
〒505-0130　兼山 1444－1
TEL 0574-59-2211
笑顔の学校

恩送り　～兼山小金管バンド活動を通してつながる絆～

教務　日比野　さおり

夏休み、「おはようございます」といつもと変わらぬ元気な挨拶が校舎に響きました。兼山小金管バンド恒例「夏休み練習」にやってきた子ども達の声です。その中に交じって中学生が数名、「金管に来ました。」とニコニコ。楽器ごとに分かれたパート練習では、自分の経験した楽器の練習を見守りつつ、課題をみつけてそっと教える。夏休み練習で子どもたちは演奏に磨きをかけ、秋の演奏シーズンに備えていきます。その大きな支えとなっているのが卒業生の存在です。

ある日のこと、卒業生のAさんが「自分の楽譜がとってあるんです。」と当時使っていたノートを見せてくれました。たくさんの書き込みがあり、時間をかけて取り組んだことが伝わってきます。楽譜に貼ってある検定の合格シールに触れながら、私やパートの子ども達に話してくれました。

私、本当に上手く演奏ができなくて、時間がかかったんです。もう、大変でした。でも先生たちや先輩たちがずっとついて教えてくれて、苦しかったし、つらかったけど演奏できるようになりました。合格した時は本当にうれしかった。だから、あきらめないで頑張ったらできる、と思えるようになりました。みんなもきっとできるから大丈夫だよ。

その話を聞き、「検定もっと受けようかな」「私も中学生になったら夏休み練習に来るんだ」「僕も」と目をキラキラさせながら話す兼山っ子を見ながら「兼山はこうやってつながっているんです」とAさんは言いました。恩返しではなく、恩送り、そう思いました。金管バンドが長く続いているのは、自分がしてもらったことを次の世代に送っていく、その恩送りの伝統があるからなのだと感じました。

8月19日、4年ぶりに開催された兼山夏祭りのオープニングに出場しました。楽器の運搬、積み下ろしにご協力くださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。「気持ちを一つにし、聴いてくださる方の心に響く演奏」をめあてに練習をしてきた「ジュピター」「兼山小学校　校歌」を披露し、練習の成果を出し切ることができました。教えに来てくれた卒業生、保護者・地域の皆様方からのあたたかい拍手が心に沁みました。

華やかなステージを成功させるには練習が必要です。ステージは数分で終わってしまいますが、その裏には並々ならぬ努力や苦労があります。卒業生はその大変さ、苦しさを乗り越える「あきらめない心」をもち、その先にある「楽しさ」を実感しています。だから、後輩である兼山っ子に根気よく、優しく教えることができるのでしょう。そんな卒業生の言葉だからこそ、子どもたちの心を動かし、恩送りができる子へと成長していくのだと思います。

兼山小の笑顔のもと「知りたいな（やりたいな）、好きだな・楽しいな」は金管バンドの活動の中にも根付いています。